

# JPSPへの進化とは？

前は『MSG→JPSPへ進化します』とお伝えしました。

今回は、”どう変わるのか？” ”何が変わるのか？”をお伝えします。

## 乗員の仲間をサポートするために、 より機能的で有機的なプログラムの構築を目指して進化します

独立性、秘匿性、透明性を確保しつつ、心理的に安心して相談できる環境(セーフゾーン)で、

悩みを抱えた仲間が解決までの道筋を見つけられるように、寄り添いサポートできる

プログラムの構築を目指します。

活動の最終的な目標は、乗員としてそれぞれの職場で健やかに働けるように、

”FIT for Duty”、”Return to Work”のためのサポートです。

## 『JPSPは何を大切にしているのか？（活動理念）』

“心のつながり”と“居場所 (セーフゾーン) の提供” ・ ”ひとりで悩んだままにさせない”

…………この理念はMSGの頃と変わりません！…………

そして、その心は Fit for duty / Return to work のお手伝いをすること“でもあります。



## 活動にあたっての3つの柱（活動の原則）

『独立性』 ・ 『秘匿性』 ・ 『透明性』

### 独立性

---

サポートプログラムの準備/構築や運営主体は我々JPSPであり、その運営に当たっては常に中立な立場を維持します。会社組織・組合は我々の必要とする援助(経費、場所の提供、マンニング、スケジュール調整等)を行います。その運営には一切介入しません。

### 秘匿性

---

相談者は秘匿環境のもとで保護されます。本人の同意なしセーフゾーンの外に相談内容や相談者の名前が出ることはありません。(相談を受けるピアは守秘の研修を事前に行います。守秘の契約を結んでから相談することもできます)

### 透明性

---

このサポートプログラムの運営は常に公明であり、その活動は誰からみても明確であることを心がけます。

## 有機的なプログラムを支える為の仕組み (4つの大切な要素)

『セーフゾーン ・ サポート委員会 ・ 会社組織 ・ 復帰プログラムリソース』

### セーフゾーン

---

相談する人とサポートする人の信頼関係のもと、相談内容が当事者間の外に出ないよう心理的に守られた、安心して話ができる環境のことです。傾聴の基本的技術や守秘義務に関する一定の研修を終了したピアや、カウンセラー資格者または臨床心理士がこのセーフゾーンの中でお話を伺います。

### サポート委員会

---

JPSPの活動を適切に行うための意見交換等を行うための委員会です。  
乗員の代表(日本航空乗員組合)、会社組織代表(安全部門、訓練部、各乗員部代表等)、JPSP(プログラムリーダー、コーディネーター、ピア、MHP) で構成されます。

### 会社組織

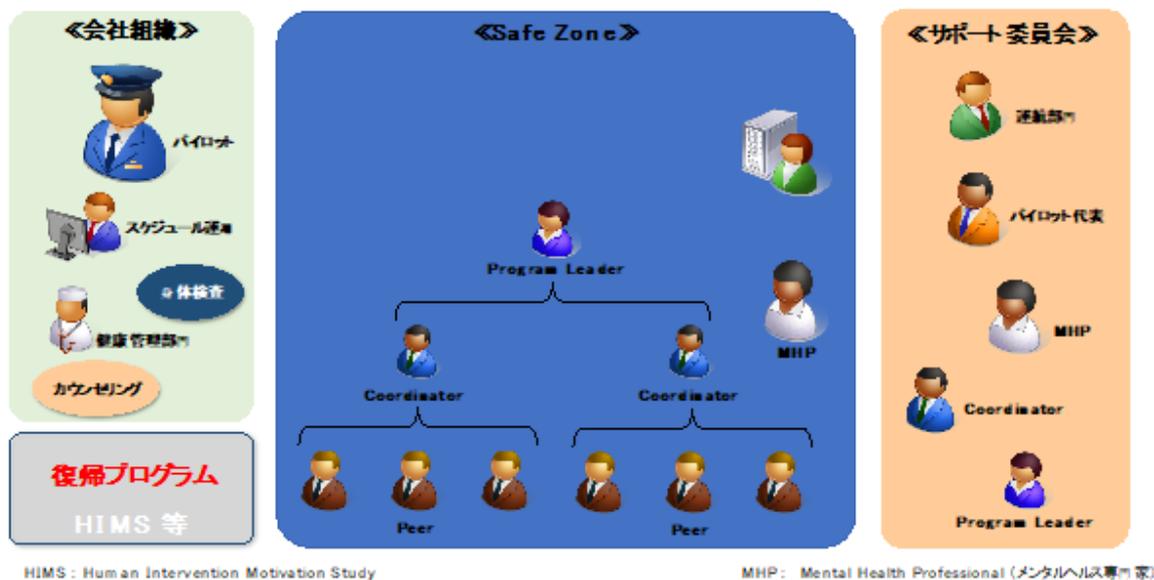
---

会社はこのプログラムを 経費・人員・スケジュール・施設 等の側面でサポートします。  
(運航安全推進部・乗員サポート部 等)

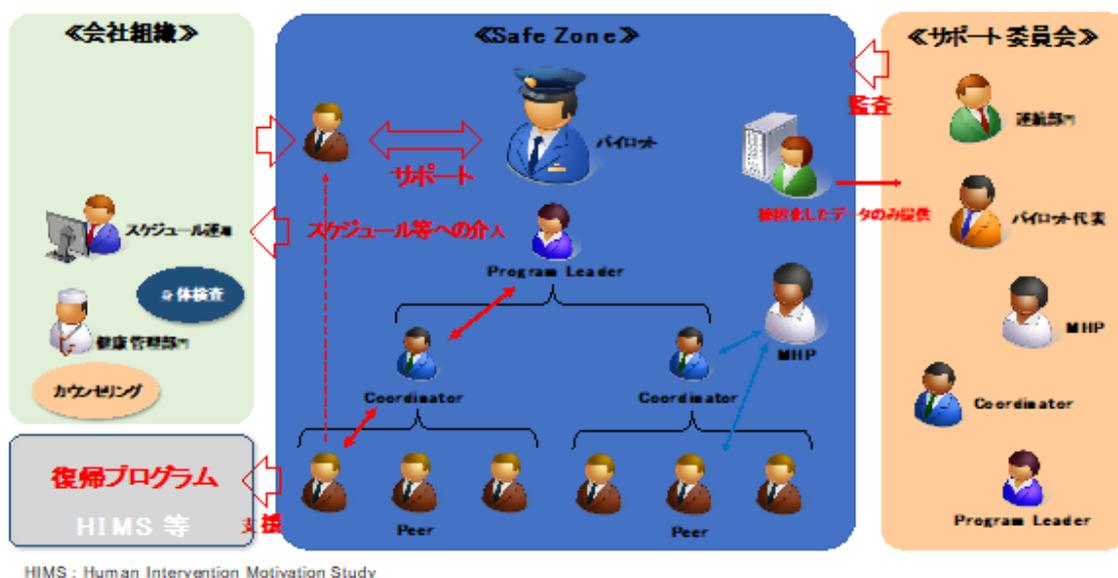
### 復帰プログラムリソース

病気やケガ、あるいはアルコール等でしばらく乗務から離れている仲間達へ、一日でも早く乗務へ復帰していただくためのプログラムを検討しています。(Return to work)

### JPSPの構成



### JPSPの構成



今までMSG(メンタルサポートグループ)の活動は、主にセーフゾーン内だけで活動を行ってきました。今後は、我々JPSPが用意したサポートプログラムを運営していく上で会社組織、組合から必要な援助を受けて活動することになります。運営に必要な項目に関しては、会社・組合と話し合いを重ねてきました。(会社の中期計画にも明記され、全面的に協力していただけることになりました。また、組合とも話し合いを続けて理解を得ることができました。)

活動の主体はあくまでもJPSPであり会社や組合はその活動方針/内容に介入しないことを約束しています。これによりセーフゾーンが保証され、相談者は安心して相談できる環境が守られます。

新たに活動を開始後は、乗員のサポートに関する必要な提言を会社に行ったり、相談者のスケジュール調整の権限の取得、会社外の援助機関への橋渡し、長期乗務離脱者の復帰のためのサポートなども関連部署と連携して、有機的に行えるようなプログラムの構築を考えていきます。

今回は、「具体的な活動の紹介 その①」です。